

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-309	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Role of CYP2C19 gene polymorphism in acute alcohol withdrawal treatment with loading dose of diazepam in a South Indian population. 南インドの集団でのジアゼパムの投与による急性アルコール離脱療法における CYP2C19 遺伝子多型の役割。		
執筆者		
Jose M, Mathaiyan J, Kattimani S, Adithan S, Chandrasekaran A.		
掲載誌		
Eur J Clin Pharmacol.2016 Jul;72(7):807-12.		
キーワード		PMID:
アルコール離脱症、ジアゼパム、CYP2C19, 遺伝子多型		27099220
要旨		
<p>目的: アルコール依存症は世界的に公衆衛生問題である。そして、普通に離脱症状がみられ、ジアゼパムが頻繁に使われる。われわれは、ジアゼパム負荷投与必要量と急性アルコール離脱症状の改善の時間に対する CYP2C19 遺伝子多型の効果について研究した。また、ジアゼパムの負荷投与の後持続する症状に関して、この遺伝子多型の影響を研究した。</p> <p>方法 DSM-IV 基準によって診断されるアルコール離脱の症状で精神医学部門に報告された 69 例の患者が本研究のために組み込まれた。CIWA-Ar によりスコアし離脱重症度を評価した後、ジアゼパムの 10mg の負荷投与量が経静脈的に投与された。患者は2時間ごとに症状の改善が評価され、20mg の経口ジアゼパムが症状の改善に基づいて与えられた。CYP2C19*2、CYP2C19*3 と CYP2C19*17 のための遺伝子タイピングは、PCR-RFLP と RT-PCR 方法によってされた。</p> <p>結果 急性症状の反転のために必要とされるジアゼパムの必要量ならびに時間は、異なる遺伝子型群の間で統計学的に相違がなかった。同様に、急性発症の治療成功後の持続性の症状患者の頻度は、群の間で異ならなかった。しかしながら、ジアゼパムの総必要量は、ベースラインの CIWA-Ar スコア(調整されたオッズ比OR 0.21、p=0.026)によって影響された。加えて、ジアゼパムの低用量(10mg)による治療の確率は、喫煙者(調整されたOR5.22、p=0.025)と他の中毒(調整されたOR 9.26、p=0.026)患者でより高かった。</p> <p>結論 南インドの集団において、CYP2C19 多型が、ジアゼパムの必要量、成功した治療のために要した時間、ジアゼパムの負荷投与の後の持続性の症状に関して、有意な影響をもたないことを明らかにした。しかしながら、ジアゼパム必要量は、ベースライン CIWA-Ar スコア、喫煙状況、他の共存する依存症によって影響をうけていた。</p>		